



新十津川町議会 議長／長谷川 秀樹

訴えていくようにしていきたいと思っています。

**熊田町長** ある行政区では、三世交代のいも掘り事業が行われています。農業経験者などが中心となって行う中で、婦人会がそこに加わって、子どもたちに豚汁を作っている。区長さんたちがそういうキッカケをつくってくれることが、昔から住んでいる人と新しく住み始めた人との交流につながり、住みよい地域づくりの実践となっていると感じています。

**長谷川議長** もう一つ、地域経済の面として基幹産業の農業がどうあるべきか。来年から米をとりまく農業施策が大きく変わろうとしているときに、農業者も農協も行政もより早く情報を収集し、どう進めていくかを早い時期から行動することが大切だと思います。

**熊田町長** 稲作を中心にしたということとは、農業者も農協も意向は同じだと思えますが、経営面積だとか農業者の高齢化だとか、議長が心配しているとおりの課題があります。昨年農協が実施し、農業公社が分析したアンケートの結果をみると、面積を増やす人と平均的な面積を維持しようとする人の二極化傾向が見られました。

**長谷川議長** 今後は、農業経営の転換が求められます。集約的に園芸をするとか、畑作をするとか、そのことによつて違う作物が作られる。それらの作物の商品価値を高める取組みが出てくるかと6次産業にもつながる。地元の商工

関係者と一緒になつて商品開発

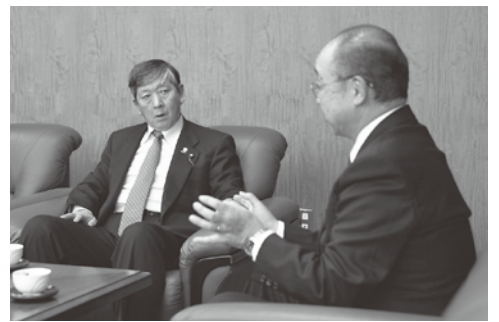
発なり販売ができれば、町の特産にもつなげていけるのではな

いか。また、昨今、Uターンで帰ってきて、農家をやるうとする若い人が増えてきています。若い農業者の声や思いを議会としても受け止め、行政としても背中を押してあげる支援をしてほしいと思います。

**熊田町長** 6次産業は必要だと感じています。町としてコメ以外の農作物にも付加価値をつけ、年間通して販売できるものを作っていかなければならないと考えています。

### 残りの任期2年で成し遂げたいことや意気込みを聞かせてください。

**熊田町長** 一昨年は総合戦略を策定し、今年度はその戦略の実行元年といつことと進めています。その中の定住促進施策では、近隣はもとより、札幌や旭川からこの新十津川に来ていただきたいと思っています。「近きもの喜ばず、



遠きもの来たらん」の言葉どおり、住んでいる人が幸せであれば、自然と遠くからも人が来てくれると思います。今、住んでいる人は町の基盤を作ってくれた大切な人でありますので、まずその方々に何ができるかを十分に考え、住みよい町をつくっていききたいと思えます。残り2年、町民全員が私の背中に乗っているという責任を感じながら、少しでも温もりが感じられるよう、子育てや安心して住み続けることができような手立て、政策を講じていきたいと思っています。誠心誠意頑張りたいという気持ちでいっぱいです。

**長谷川議長** 2年後の改選を見据えて、議会としてどうあるべきか、議員定数と報酬の方向性をきちっと出して住民に説明していきたい。早急に特別委員会を設置した中で、議員間で十分に練り、住民説明や理解を求めていると思います。また、これまでの2年間は5人の1期日議員も含めて、前へ前へと進んできた感がありますが、ちよつと立ち止まってこれからの2年間をじっくり考える時間も必要だと考えています。3年目の今年、腰を据えた年にして、最終年には今期の成果を出していきたいと思えます。また、多くの町民の方に議会を見守っていただき、そしてご指導をいただいていることに感謝しています。これからも、特に1期生を中心に、さらに育てる応援をしていただければありがたいと思います。